

探究的な学習

平成14年度に大阪府で最初にSSHの指定を受けて以来、本校ではスーパーサイエンスコースの2年生を対象に「課題研究」を実施してきました。この授業は、グループまたは個人で自然科学に関する研究テーマを設定し、通年にわたりそれぞれの探究活動を進めていくというものでした。その後、現在に至るまで、この取り組みは継承され、現在は2年生全員を対象とし、人文科学・社会科学も包括する形で発展しています。

文理学科設置後の本校の課題研究は、形式的には文科(文系)と理科(理系)に分けて設置されています。「文科」では主に人文・社会・国際系に関するテーマについて、「理科」では、主に自然科学に関するテーマについて、週1コマ(65分)の授業時間にそれぞれの担当教員の指導のもと、探究活動を行っていきます。ただし、ほとんどのグループが文科・理科の両方の生徒を受け入れており、文理融合型の学習環境です。

1年という短い期間の研究ですが、グループの中で一人ひとりの考えを出し合って話し合い、また、さまざまな調査や実験などを繰り返しながら、テーマに関連する課題の解決に一步步迫っていきます。1年間の探究活動の成果は、校内あるいは校外での発表会などで、大学の先生方や他校の生徒の前で発表するとともに、論文などの形式でまとめます。

平成26年度からの5年間、文部科学省よりSGHの指定を受け、「アジアと学び合うー夢を実現する国づくり」というテーマのもと、探究活動に取り組んできました。令和元年度からの3年間はWWLコンソーシアム構築支援事業の拠点校に指定され、「健康・医療」「幸福」という大テーマに沿った内容のWWL関連探究講座が設置されました。選択した生徒は地域振興、建築、健康な生活、持続可能社会などの課題について探究活動を進めました。

今後も、専門家とのコミュニケーションを基盤としたアカデミックなものを維持しながら、社会や世界と結びつく視点を忘れることなく、探究を続けていきます。

